

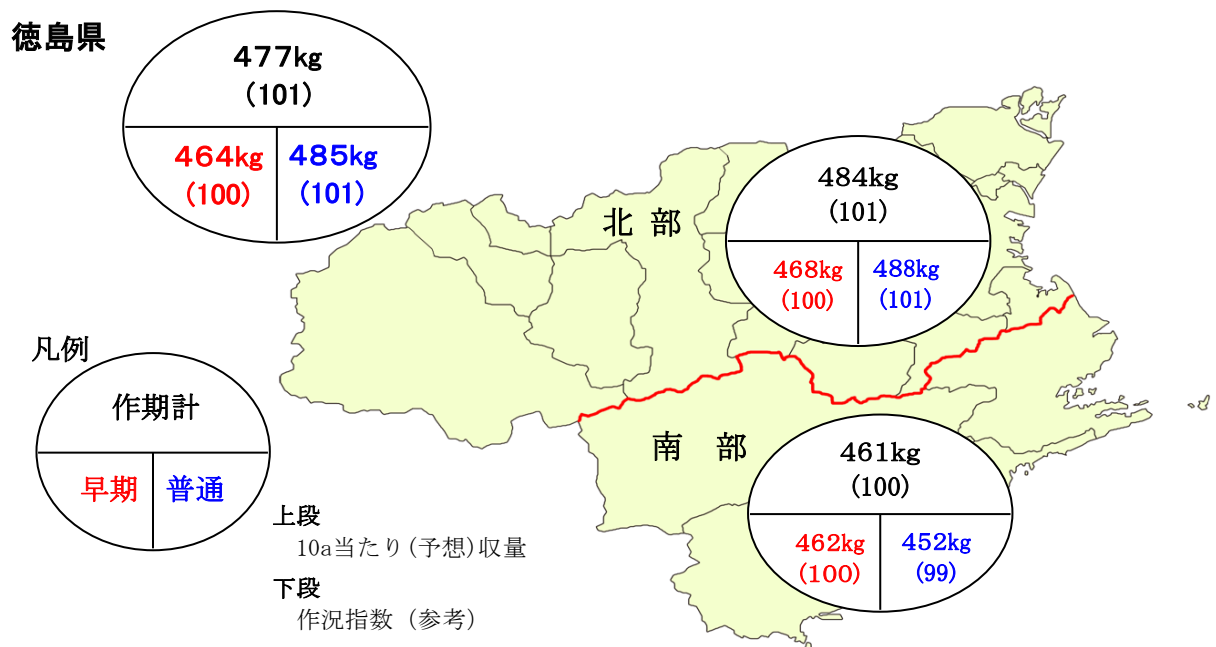
平成24年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)
 (徳島県)

－ 水稻の10a当たり予想収量は477kg(作況指数101)の見込み －

【調査結果の概要】

- 平成24年産水稻の作付面積(子実用)は1万3,200haとなりました。
 また、主食用作付見込面積は1万3,100haが見込まれます。
- 10月15日現在における水稻の作柄は、県平均で10a当たり予想収量477kg(作況指数101)が見込まれます。
- 作期別にみると、早期栽培の10a当たり収量は464kg(作況指数100)となりました。
 普通栽培の10a当たり予想収量は485kg(作況指数101)が見込まれます。
- この結果、予想収穫量(子実用)は、6万3,000tが見込まれます。
 また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は6万2,500tが見込まれます。

図 地帯別作期別10a当たり(予想)収量(10月15日現在)



- 作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積(見込み)です。
- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり(予想)収量の比率をいいます。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測したものです。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。
- 統計調査における調査目的、調査対象、北部、南部の範囲などは【調査の概要】(P9)に記載しています。

【 解 説 】

1 水稲作付面積（子実用）

平成24年産水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、青刈り用の面積を除いた子実用作付面積は 1万3,200haで、前年産並みとなりました。

また、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は 1万3,100haで、前年産に比べて 100ha（対前年産比1%）の減少が見込まれます。

2 作柄

(1) 早期栽培

ア 田植後の分けつ期の日照不足や疎植栽培が進んでいることもあり、穂数は「少ない」となりました。

イ 1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の気温が平年を上回ったことや、穂数が少なかったことの補償作用等により「やや多い」となり、全もみ数は「平年並み」となりました。

ウ 登熟は、出穂期以降、おおむね平年並みの気象で推移したことから、「平年並み」となりました。

エ 以上のことから、早期栽培の10a当たり収量は 464kg（作況指数100）となりました。

(2) 普通栽培

ア 田植後の分けつ期の日照不足や疎植栽培が進んでいることもあり、穂数は「やや少ない」となりました。

イ 1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の気温が平年を上回ったことや、穂数が少なかったことの補償作用等により「やや多い」となったものの、全もみ数は「やや少ない」となりました。

ウ 登熟は、出穂期以降、おおむね気象に恵まれていることから、「やや良」で推移しています。

エ 以上のことから、普通栽培の10a当たり予想収量は 485kg（作況指数101）が見込まれます。

3 予想収穫量

ア 以上の結果、予想収穫量（子実用）は 6万3,000 tが見込まれます。

イ また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は 6万2,500 tが見込まれます。

表 1 平成24年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作付面積（子実用）			10a当たり （予想） 収量	予想収穫量（子実用）			（参 考）			
	実 数	前年産との比較			実 数	前年産との比較		主食用 作付見込 面積	予想収穫量 （主食用）	10a当たり 平年収量	作況指数
		①	対差			対比	②				
徳 島 県	13,200	0	100	477	63,000	1,900	103	13,100	62,500	474	101
作柄表示地帯別											
北 部	9,390	△ 10	100	484	45,400	1,200	103	…	…	479	101
南 部	3,830	10	100	461	17,700	700	104	…	…	461	100
作 期 別											
早 期 栽 培	5,100	20	100	464	23,700	900	104	…	…	463	100
普 通 栽 培	8,120	△ 20	100	485	39,400	1,000	103	…	…	480	101

注：1 作付面積（子実用）とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から青刈り用の面積を除いた面積です。（以下の各表において同じ。）

2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）の内訳を「…」としているのは、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を作柄表示地帯別及び作期別に把握していないためです。

3 作柄表示地帯別及び作期別の作付面積（子実用）及び予想収穫量（子実用）の積み上げ値と徳島県計が一致しないのは四捨五入（P10参照）のためです。

4 表中の「△」は、減少を示します。

表2 作柄概況

区 分	10a当たり (予想)収量	(参考)		穂 数 の 多 少 (平 年 比 較)	一 穂 当 た り の 多 少 (平 年 比 較)	全 も み 数 の 多 少 (平 年 比 較)	登 熟 の 良 否 (平 年 比 較)
		10a当たり 平年収量	作況指数				
	①	②	③=①/②				
早期栽培	464 ^{kg}	463 ^{kg}	100	少ない	やや多い	平年並み	平年並み
北 部	468	466	100	少ない	多い	平年並み	平年並み
南 部	462	462	100	少ない	やや多い	平年並み	平年並み
普通栽培	485	480	101	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
北 部	488	481	101	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
南 部	452	456	99	少ない	多い	やや少ない	平年並み

注： 本表の「穂数」「1穂当たりもみ数」「全もみ数」の多少及び登熟の良否に用いた表示区分は、「統計表の見方」(P10)を参照して下さい。

区 分	刈 取 期					刈 取 済 面積割合	対平年差
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較			
				対平年	対前年		
早期栽培	月 日	月 日	月 日			%	ポイント
北 部	8.14	8.23	8.31	1日遅	2日早	100	0
南 部	8.20	8.26	9. 2	1日遅	4日早	100	0
南 部	8.12	8.21	8.30	1日遅	1日早	100	0
普通栽培	8.24	9.10	10.14	平年並み	前年並み	96	△ 2
北 部	8.24	9.10	10.14	平年並み	前年並み	96	△ 2
南 部	8.24	9. 7	9.24	2日早	1日早	100	1

注：1 刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は平年より少ないことを示します。

◎ 早期栽培累年データ

	作付面積 (子実用)	10 a 当たり収量	収穫量 (子実用)	10 a 当たり 平年収量	作況指数
	ha	kg	t	kg	
平成14年産	5,230	463	24,200	468	99
15	5,160	447	23,100	468	96
16	5,170	460	23,800	465	99
17	5,290	480	25,400	463	104
18	5,290	440	23,300	463	95
19	5,260	445	23,400	463	96
20	5,350	488	26,100	463	105
21	5,330	458	24,400	463	99
22	5,190	453	23,500	463	98
23	5,080	449	22,800	463	97

◎ 普通栽培累年データ

	作付面積 (子実用)	10 a 当たり収量	収穫量 (子実用)	10 a 当たり 平年収量	作況指数
	ha	kg	t	kg	
平成14年産	9,050	485	43,900	475	102
15	8,910	458	40,800	475	96
16	8,940	464	41,500	477	97
17	8,790	491	43,200	480	102
18	8,780	467	41,000	480	97
19	8,710	493	42,900	480	103
20	8,520	514	43,800	480	107
21	8,410	479	40,300	480	100
22	8,290	482	40,000	480	100
23	8,140	472	38,400	480	98

◎ 水稲作況調査結果の利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水稲の年次別推移（徳島県）

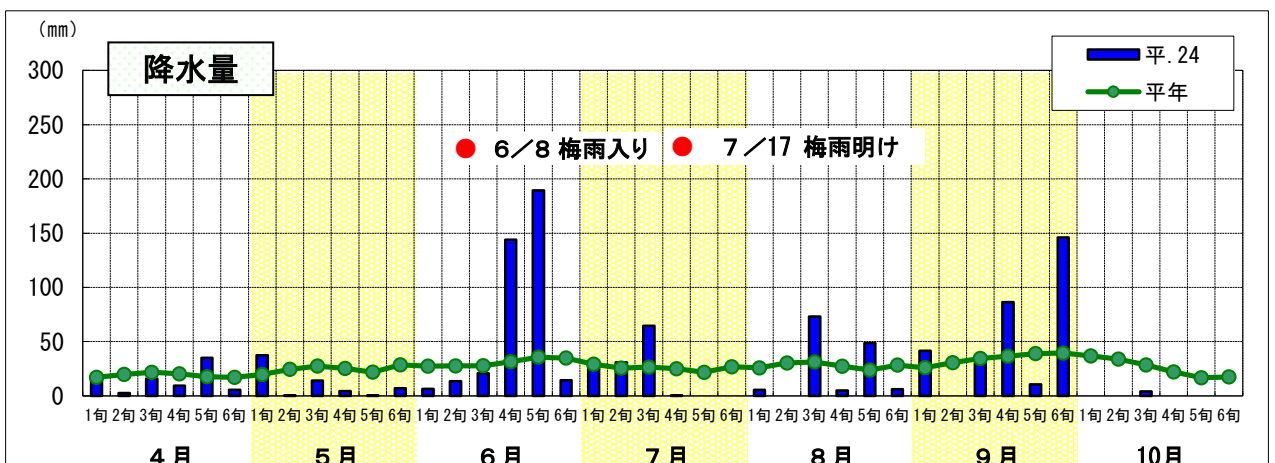
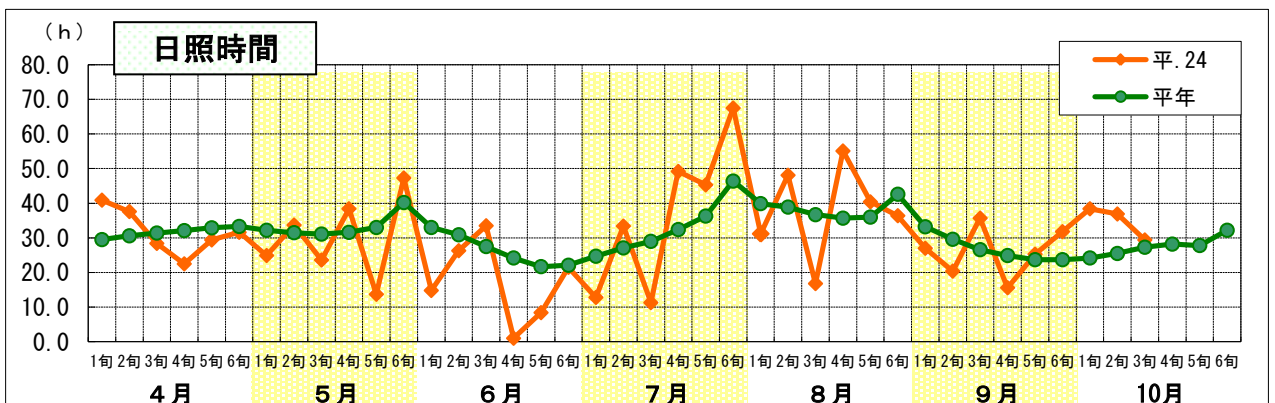
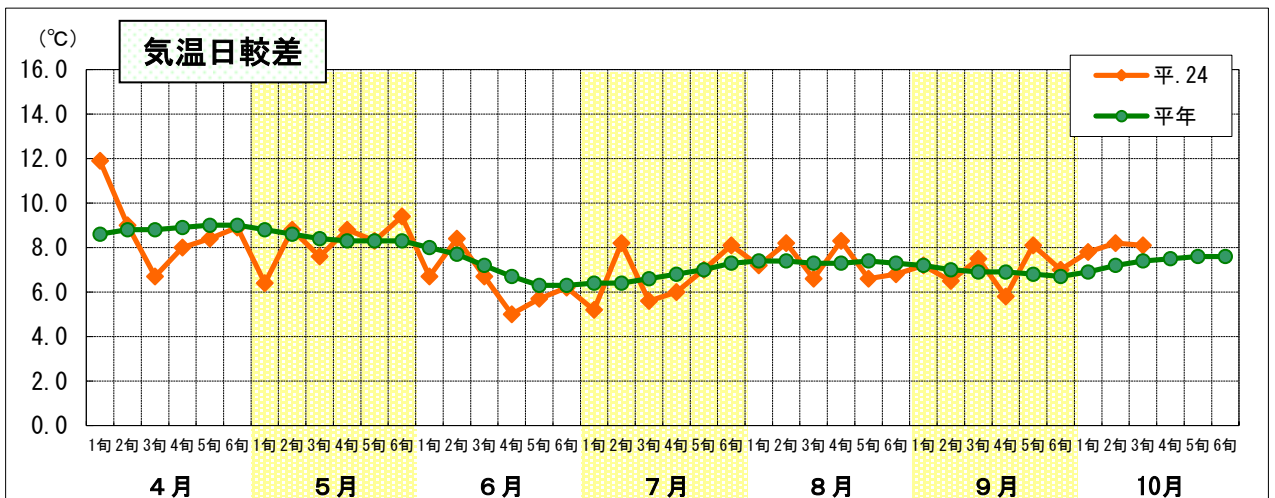
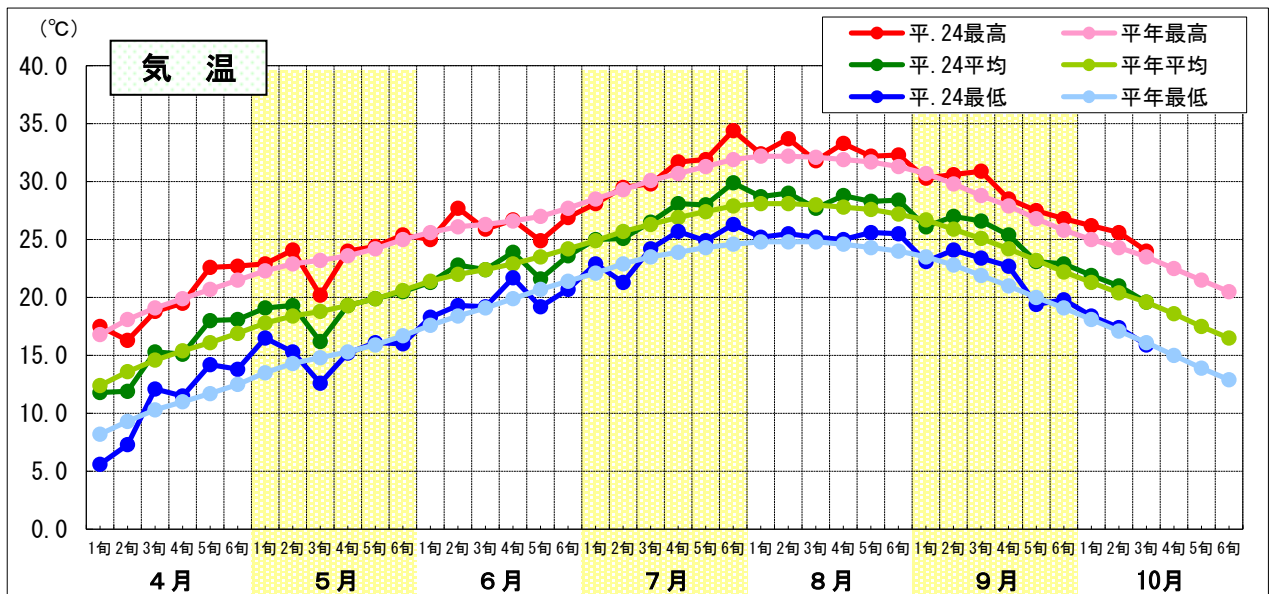
区 分	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参 考)			
				主 食 用 作 付 面 積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10a当たり 平 年 収 量 kg	作 況 指 数
昭和57年産	17,500	388	67,900	…	…	410	95
58	17,500	442	77,400	…	…	410	108
59	17,700	457	80,900	…	…	414	110
60	18,000	464	83,500	…	…	418	111
61	17,700	448	79,300	…	…	424	106
62	16,700	443	74,000	…	…	427	104
63	16,400	447	73,300	…	…	432	103
平成元	16,400	441	72,300	…	…	436	101
2	16,400	434	71,200	…	…	441	98
3	16,300	436	71,100	…	…	445	98
4	16,700	425	71,000	…	…	445	96
5	16,800	388	65,200	…	…	445	87
6	17,200	504	86,700	…	…	445	113
7	16,800	484	81,300	…	…	445	109
8	16,200	472	76,500	…	…	447	106
9	15,800	449	70,900	…	…	453	99
10	15,300	452	69,200	…	…	455	99
11	15,100	464	70,100	…	…	462	100
12	14,900	476	70,900	…	…	468	102
13	14,500	471	68,300	…	…	468	101
14	14,300	476	68,100	…	…	472	101
15	14,100	453	63,900	…	…	472	96
16	14,100	463	65,300	…	…	472	98
17	14,100	487	68,700	…	…	474	103
18	14,100	457	64,400	…	…	474	96
19	14,000	475	66,500	…	…	474	100
20	13,900	504	70,100	13,900	70,100	474	106
21	13,700	471	64,500	13,700	64,500	474	99
22	13,500	471	63,600	13,500	63,600	474	99
23	13,200	463	61,100	13,200	61,100	474	98

注：1 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。

2 「…」は事実不詳又は調査を欠くものです。

【平成24年 稲作期間の気象経過】

資料：気象庁
観測地点：徳島



【参考1】

平成24年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量（子実用）及び10a当たり収量（概数値）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（P7【参考2】参照）。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅の重量割合の概数値並びに選別ふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりです。

1 ふるい目幅別重量分布状況

区 分	合 計	ふ る い 目 幅						
		2.00mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
徳 島 県	本年：%	100.0	82.1	11.2	2.5	1.9	1.4	0.9
	対平均差 (ポイント)		4.0	△ 2.8	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.2
作柄表示地帯別 北 部	本年：%	100.0	81.3	11.7	2.6	2.0	1.5	0.9
	対平均差 (ポイント)		4.9	△ 3.4	△ 0.6	△ 0.6	△ 0.1	△ 0.2
南 部	本年：%	100.0	83.9	10.1	2.6	1.6	1.1	0.7
	対平均差 (ポイント)		4.0	△ 3.2	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.3
作 期 別 早 期 栽 培	本年：%	100.0	82.0	11.7	2.4	1.8	1.3	0.8
	対平均差 (ポイント)		4.1	△ 3.0	△ 0.4	△ 0.3	△ 0.2	△ 0.2
普 通 栽 培	本年：%	100.0	82.3	10.9	2.6	1.9	1.4	0.9
	対平均差 (ポイント)		4.1	△ 2.8	△ 0.5	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.2

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規定に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

2 選別ふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

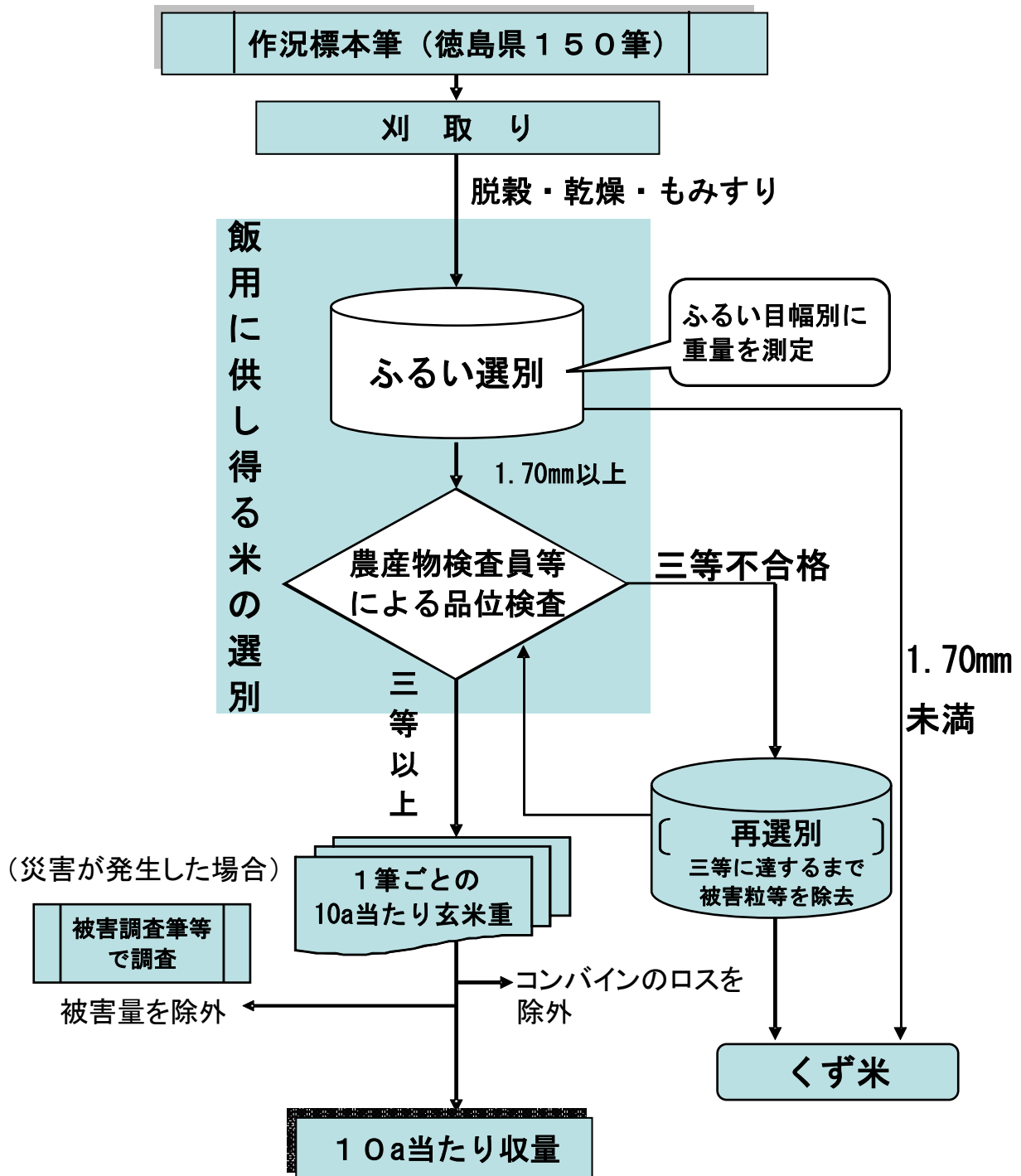
区 分	収 穫 量 (子実用) t	ふるい目幅別収穫量及び10a当たり収量					
		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別
徳 島 県	63,000	62,400	61,600	60,400	58,800	51,700	
作柄表示地帯別							
北 部	477	473	466	457	445	392	
南 部	477	473	466	457	445	392	
作 期 別							
早 期 栽 培	464	460	454	446	435	380	
普 通 栽 培	485	481	474	465	452	399	

注：1 選別ふるい目幅別の収穫量とは、予想収穫量に選別ふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

2 選別ふるい目幅の10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。

【参考2】 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規定に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



【参考3】

ふで 作況標本筆とは

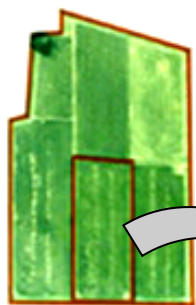
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼びます。）は、徳島県の水稲の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように選定（徳島県は150筆）しています。

徳島県内の全耕地 (母集団)



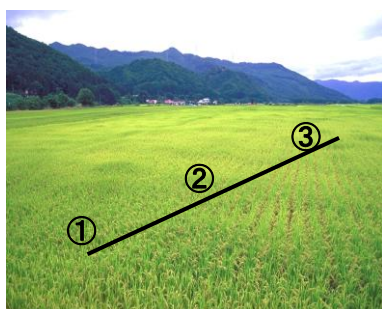
- ① 徳島県の耕地を、約2haの区画に区切った単位区の集まり（調査母集団）として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいます。

標本単位区 (約2ha)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆 (徳島県は150筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3ヵ所（①、②、③）を実測調査箇所として、サンプル採取（坪刈り）を行いました。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の区分

調査は、早期栽培、普通栽培ごとに、県内を北部、南部に区分して実施しています。

北部：徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦郡、名東郡、名西郡、板野郡、美馬郡、三好郡

南部：阿南市、那賀郡、海部郡



3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：507単位区 巡回・見積り：24市町村

(2) 予想収穫量調査

作況標本筆：150筆 作況基準筆：6筆 巡回・見積り：24市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りの方法により行いました。

(2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆及び作況基準筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りの方法により行いました。

7 集計の方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめました。

(2) 予想収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りの方法により補完して取りまとめました。

8 用語の解説

(1) 10a当たり平年収量

水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

(2) 早期栽培

台風の影響を受けやすい時期に出穂期（しゅっすいき）となることを回避する等から、おおむね8月中旬頃までに収穫する目的で作付けする栽培方法です。

(3) 穂数

単位面積当たりに出穂した全ての穂の数です。収量決定に当たって重要な要素の一つです。

(4) 全もみ数

単位面積当たりの全てのもみの数のことです。収量決定に当たって極めて重要な要素です。

(5) 登熟

開花、受精した後、実が肥大し熟れていくことです。生育条件や気象条件、病害虫などの影響を受けます。

(6) 青刈り

子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

9 利用上の注意

本調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【統計表の見方】

- 1 表中で用いた表示区分は、過年次の作況標本筆結果から作成した各指標の平年値に対する比率を次のとおりの区分で表したものです。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	やや少ない (やや不良)	平 年 並 み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- 2 表中の統計数値については、下記の方法によって四捨五入しています。

原 数		5 桁 (1 万)	4 桁 (1, 000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁	1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	12, 345	1, 234	123
	四捨五入した後（統計数値）	12, 300	1, 230	123

【水稻関係発表予定】

12月 平成24年産 水稻の収穫量（徳島県）



～本統計調査結果のお問い合わせ先～

中国四国農政局 徳島地域センター
農政推進グループ 生産流通消費統計・情報担当

Tel : 088-653-2163

Fax : 088-655-4657

◎ この農林水産統計は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」でご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/chushi/info/toukei/36tokushima/index.html>